

# 節約 まずはランチで

今春の消費税増税や11月の電気料金再値上げを控え、会社員らがランチ代を節約する傾向が強まっており、そこに目を付けた商戦が札幌市内で盛んになっている。雑貨店では弁当箱が売れているほか、弁当店も400円以下の商品を充実。提示すると500円でランチを味わえるグルメ本も、売り切れる書店が続出する人気だ。

(本郷由美子)

「子供の教育費もかかるし、削れるのはランチ代くらい」。美容室を夫婦で経営する札幌市北区の須田千春さん(41)は3カ月前から「飯を職場に持参し、おかずはコンビニエンスストアなどで買う。外食中心だった以前に比べ月に1万2千円ほどの節約になった。女性専用モニターサイトを運営するエルアイズ(札幌)が9〜10月、道内女性200人に実施したアンケート

で、増税後に意識する行動について「外食を減らす」が34%だった。同社の山本亜紀子社長は「家計が苦しいと訴える人が増えた。私の周りでも弁当を持参する人は多い」と語る。

札幌ロフト(同市中央区)では、約1800種の弁当箱や水筒などの売り上げが増えている。同店は「弁当は節約の定番。今後も売れる」とみて販売に力を入れる。イオン北海道(札幌)

## 消費増税や電気料金再値上げ…



企業を訪れ、弁当を販売する日信の社員(奥)。300〜400円台と手ごろな商品が多く、給料日前は売り上げが伸びるといふ＝札幌市中央区

## 増える手弁当／市販品も低価格人気

も忙しい人が短時間で弁当が作れるよう、自然解凍できる冷凍食品の品ぞろえを増やした。

弁当店もお買い得商品をそろえる。弁当製造販売大手の日信(札幌)は約200人の販売員が札幌市と周辺で企業などを巡回し、50種の弁当を販売。増税後はコロッケ弁当(350円)など300円台の商品を強化した。西区の会社経営森田龍雄さん(66)は増税を機に外食から同社の弁当に変えた。「ワゴン以下で種類も多く飽きない」弁当店「ベントス」を展開するアイチフーズ(札幌)は近く500円の弁当3種を発売する。増税に伴う価格改定で、それまで500円台後半の商品が600円台となり、売れ行きが鈍ったため、安価な路線でこ入れを図る。

グルメ本「ランチパスポート札幌」(1058円)は、出版社のコスモメディア(札幌)が発行。同市中心部の約80店のランチが掲載され、各店で提示すれば、通常700〜1250円のメニューを1店当たり3回まで500円で食べられる。

掲載店の「東京トンテキ札幌店」(中央区)を訪れた北区の会社員加賀雄太さん(28)は「コンビニ弁当と同程度の値段で外食ができるのは助かる」とほぼ毎日ランチパスポートを使っている。コスモメディアによると、これまで発行した6号は各3万部を完売。10月発売の7号の売れ行きもかつてない伸びだという。同社は「消費者は安いだけでは満足しない。出したお金の以上の食事ができることが支持された」とみる。